



TITLE:

天文同好會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

天文同好會觀測部月報. 天界 1931, 12(129): 34-36

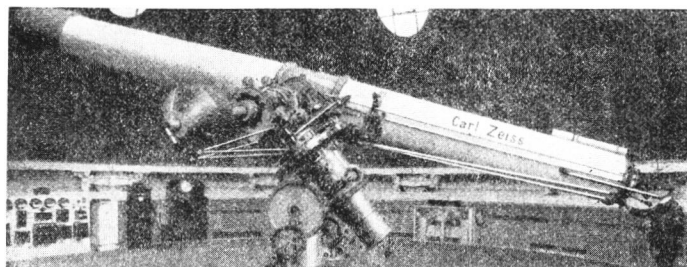
ISSUE DATE:

1931-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161743>

RIGHT:



天文同好會觀測部月報

彗星だより

1913 III (Neujmin) 彗星 今年歸來する筈であつた。此の彗星は、去る9月17日米國 Wilson 山の S. B. Nicholson によつて發見された。其後、8月20日に撮られた乾板にも其像が發見されたと云ふ事である。其の位置は、B.A.A.-Circular 105 に A.C.D. Crommelin が發表した豫報位置と $1'$ 以内で合つて居る。又其近日點通過を4月29.75とすれば、Van Biesbroecks の軌道要素にもよく合ふと云ふ事である。U.A.I. Circulaire 339 には、今年度の B.A.A. Handbook に與へられて居る J. P. Möller の豫報に對して、近日點通過を4月27.3日として、今年中の豫報位置を掲げてある。光度は約15等半。此の彗星の特長とも云ふべきは Coma 殆んどなく、全くの星様の像である事で Nicholson は例の 254cm の大反射鏡で、一時間曝寫をしても何らそれらしい物は認められなかつたと云つて居る。故に其の外形及び運動より見れば、小遊星としか見えない。

Ryves (1931 C) 彗星 10月15日の再發見以後、當花山天文臺に於て満月近く迄觀測されて居る。後報によれば、其の一週間程以前に、米國でも觀測された由。L.O.B. 438によれば、E.C. Bower 等は此の彗星の軌道は双曲線だと云つて居る。其れは、多分、昨年11月頃に木星に非常に接近した爲だらうと云ふ事である。そして、氏は、昨年10月頃よりの其位置を計算して、各天文臺の追加發見に便利を與へて居るけれど、此軌道要素より計算した、本年10

月15日の位置と、當天文臺にて再發見された時の位置と可なり、喰ひ違ふ様であるから、此の Bower の豫報位置を全部信頼し兼ねる様に思ふ。此れに反して、同じく Bower が U.A.I. Circulaire 337 に發表した。拋物線軌道要素の方が反つてよく、觀測の位置と合ふ様な結果である。光度は10月の中旬約8等半位であつた。光度は落ちるが段々太陽から、離れて來るから夜明けの觀測に便利である距離は11月下旬に、太陽及び地球から共に、2天文單位位である。(柴田)

流 星 課 よ り

課長 小 槇 孝 二 郎

一九三二年の歳旦にあたり、謹んで觀測部諸兄の御健康を賀し奉る！

例によつて勾々四分儀の流星群が四日前後に出現する。これは數年來流星課でも觀測され、殊に昨一九三一年には月明にも拘らず長野縣の八幡氏が甚だ多數の流星を見られた。本年も引つゞいて注意を怠らないでゐたい。月の邪魔は本年は全くないので好都合である。

× × × × ×

さて十月以來の觀測狀況を述べる事にする。二十日前後のオリオン双子流星群は、八幡、山田、森下、下保、天野の諸氏によつて觀測されてゐるが、最も盛んであつたのは二十二日—二十三日の様である。輻射點も數個とらへる事が出來た。

臺灣の田端氏は六日より七日に亘つてペガサス座γ附近($\alpha=355^\circ$ $\delta=+17^\circ$)に輻射點を有する一流星群を觀測してゐる。これは札幌市の下保氏も五日六日の兩日に若干認めてゐるが、輻射點は不確實乍ら東方へ移動する様である。著しい流星群ではないが從來見られてゐないらしい。

下保氏は又九日—十日ジャコビニ彗星に關聯する龍座流星群らしいものを若干見られてゐる。

次に十月分の觀測表を掲載する。

観 測 者	観 測 地	観測回数	観測時数	観測個数
下 保 茂	札幌市	13	582分	65
天 野 吉 郎	函 館 市	11	355	47
八 幡 修 一	長野縣平野村西堀	4	380	70
廣瀬永治郎	岐阜縣美濃町	1	35	6
村上庫二郎	京都府綾部町	1	35	14
麻生佐七郎	大 阪 市	4	120	5
森 下 功	廣 島 市	5	510	94
山 田 辰	山 口 縣 小 郡	3	192	20
田 端 實	臺 灣 桃 園 街	2	295	39

此外に東京市の稻垣武五氏より火球の報告があつた。

獅子座流星群

(1931, 11, 25)

十一月の獅子座流星群の観測は概大前後は晴天にめぐまれた爲、比較的よく観測された様である。未だ一部分の報告しか手に入らないが、それ等と自分の十六日—二十一日の観測とから判断すれば 十八日早曉が最も多數の出現を示した。一時間平均三十個位は観測されてゐる。次は十七日、更に十九日といふ順であるが、眞の極大は日本時間の十七日午後であらうから大西洋航行中の船上の観測者からは著しい出現が見られたかも知れない。クロムメリンの豫告はさすがによく満足されてゐる。(小楨)

獅子の流星は昨年 of 二倍位でせう一等以上のものが一時間に五ヶ位でありペルセウスとほぼ同じ位です。大きなものが多い割には案外小さなものが少くあります。明年は多い事は確かでせうが Node と合はない時間に通つたら多分今年の二—三倍でないでせうか。小生は大したびつくりする様な Showe は宛にしません。ペルセウスの1921年頃の最盛期より盛んには成りませうが、寫眞は r adian から 30° 離れた所に -1^M のものが 11^{cm} で何の痕跡も残しませんでした。たゞ radiant point を含んだ field に point してやつと流星がとれる見込みがありませう、とても早く動くのであきません。(中村)

1931年11月25日